

CITY OF YOKOHAMA

# 横浜市実証実験支援について

横浜市経済局産業連携推進課

2024年3月18日

明日をひらく都市  
OPEN X PIONEER

## 枠組み

実証フィールドの提供  
(例: 横浜市に関連施設、市内事業所)

実証実験の提案募集

提案の採択

実証実験の実施

実証実験参加  
企業



フィールド  
提供者

【参加メリット】

- ◆ 実証実験の実施機会の獲得
- ◆ 横浜市によるPR支援

【協力のメリット】

- ◆ 新たな製品・サービスの試験利用機会の獲得

導入/成果  
事例のPR

マッチング  
支援

横浜市

横浜市が実証実験フィールドを事前に準備します。

**課題解決**につながる実証実験を募集し、各フィールドで実証実験を行います。

# 横浜市の実証実験サポートによる実施事例①

明日をひらく都市  
OPEN X PIONEER  
YOKOHAMA

## 市場・商業施設



<場所>

横浜南部市場

<目的>

コロナ禍における**市場や商業施設**の活性化・賑わい創出

## スマート農業



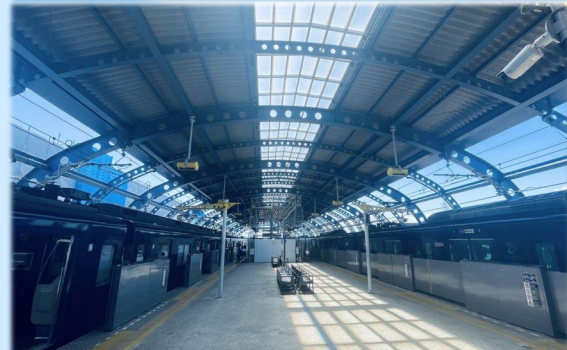
<場所>

横浜市内の農地

<目的>

**都市農業**における農作業の省力化、農作物の栽培支援、営農環境の改善等を実現

## 鉄道駅



<場所>

横浜市内の鉄道関連施設

<目的>

鉄道利用の快適性と社会インフラとしての**鉄道駅**の提供価値の向上



【左から】検査 田中浩二 部長、伊藤 隆典 部長、岩崎 隆典 部長、岩崎 隆典 部長、岩崎 隆典 部長



【左から】NTT 東日本 神奈川事業部 ビジネスイノベーション部 まちづくり推進グループ 部長 小島敏彦氏、同グループチーフ 後藤義行氏

NTT 東日本が協力農家にヒアリングを行った結果、「不法投棄」「農作物の盗難」「鳥獣被害」という3つの問題を抱えていたという。「不法投棄などの有事が発生した場合はカメラで検知できる。これらの発生件数を減らすことが実証実験の目的だ。また、農家側が動画画像を「見たいときに見ることができるか」を検証していく」と同グループ 担当課長の小島敏彦氏はこう述べたうえで、「実証実験後は本格導入に向け、コストの問題が発生する。コストと実証実験の結果を照らし合わせて、今後の方向性を明確化してもらいたい」と期待を寄せる。

横浜市は、同実証実験で培ったノウハウの横展開も視野に入れる。例えば、高齢者や子供の見守りへの活用だ。「Wi-Fi HaLowなどのテクノロジを有する企業と、困りごとを抱えている企業を結びつけることで、横浜市の社会課題を解決していきたい」と横浜市 経済局 スタートアップ・イノベーション推進室 産業連携推進課 課長 岩崎隆典氏は意気込む。

Wi-Fi HaLowは国内にも着実に浸透している。対応端末の増加や実証実験が追い風となり、Wi-Fi HaLowの活用はさらに広がっていくだろう。

減少していく中、既存の経済体系のままだと横浜市の持続的発展は難しい。行政として、AIやIoTなどの新技術でモノを作ることに長けている。国内ベンダーで完結させるのではなく、台湾ベンダーと協力しながらデバイスを増やすための活動を進めていく」と森田氏の鼻息は重い。

さらに、AHPCCはNTT 東日本が東京・調布に構えるNTT 中央研究所に、国内で初めてのWi-Fi HaLowを実フィールド環境で実証実験ができるラボをオープンした。複数ベンダー製品の相互接続に加え、ベンダー同士で意見交換を行える場などを設けているという。

今回の実証実験では、圃場内の監視を目的に、農地のような広大なエリアをカバーできるWi-Fi HaLowを活用したカメラを圃場内2カ所に設置し、映像伝送が可能かどうかを検証するという(図表3)。「Wi-Fi HaLowは広範囲のエリアをカバーできるのが特徴で、中継器や無線LAN親機を減らすことが可能だ。通信速度としても動画伝送に向いている」とNTT 東日本 神奈川事業部 ビジネスイノベーション部 まちづくり推進グループ チーフの後藤義行氏は言う。

ゲートウェイ対応 HaLowアクセスポイント「ACERA(アセラ)330」の提供を開始した。ただ、「現時点でアクセスポイント以外の製品が少ない」という。「既存のデバイスをWi-Fi HaLowに簡単かつ低コストで変換できるアダプターも今後登場する。そうすれば普及へのドライブがかかってくるのではないかと」森田氏は予想する。

また、AHPCCは対応端末の拡大に向け、台湾ベンダーとの連携も強化する。「台湾ベンダーはコストが良く短時間でモノを作ることに長けている。国内ベンダーで完結させるのではなく、台湾ベンダーと協力しながらデバイスを増やすための活動を進めていく」と森田氏の鼻息は重い。

さらに、AHPCCはNTT 東日本が東京・調布に構えるNTT 中央研究所に、国内で初めてのWi-Fi HaLowを実フィールド環境で実証実験ができるラボをオープンした。複数ベンダー製品の相互接続に加え、ベンダー同士で意見交換を行える場などを設けているという。

【都市部でのスマート農業】実現へ

Wi-Fi HaLowを活用して社会課題の解決に尽力しているのが、神奈川県横浜市だ。

横浜市は2017年、IoTなどを活用したビジネス創出に向けた企業・団体間の交流や連携、プロジェクトの推進、人材育成の場となる「IoTオープンイノベーションパートナーズ(I-TOPTOP横浜)」を設立。約6000の製造業、約3000のIT産業の事業所を抱える横浜市の強みを活かし、企業間の“横連携”を創う。「生産年齢人口が

農地映像手軽に確認

スマート農業 都市部での活用期待 実証実験

横浜市保土ヶ谷区の農業 近部博之さん(53)が代表を務める刈藪農園をフィールドにしたNTT 東日本神奈川事業部によるスマート農業の実証実験が1カ月前にわたりに行われた。点在する農地を新規採れた無線でつな

ぎ映像データをスマートフォンなどで見られるようにする実証。「導入費用の問題はあるが、さまざまな活用が考えられそうだと」近部さんは話している。

横浜市が実証実験の場をマッチングする「I・T・O



直売所プレスコの前のカメラの具合を話す右から近部さん、後藤さん、小島さん  
＝横浜市保土ヶ谷区



横浜市、見回り軽減のためのVR・IoT・ロボットを活用したスマート農業の実証実験をスタート

IoT 農機ロボット 鳥獣害対策 神奈川県の事例

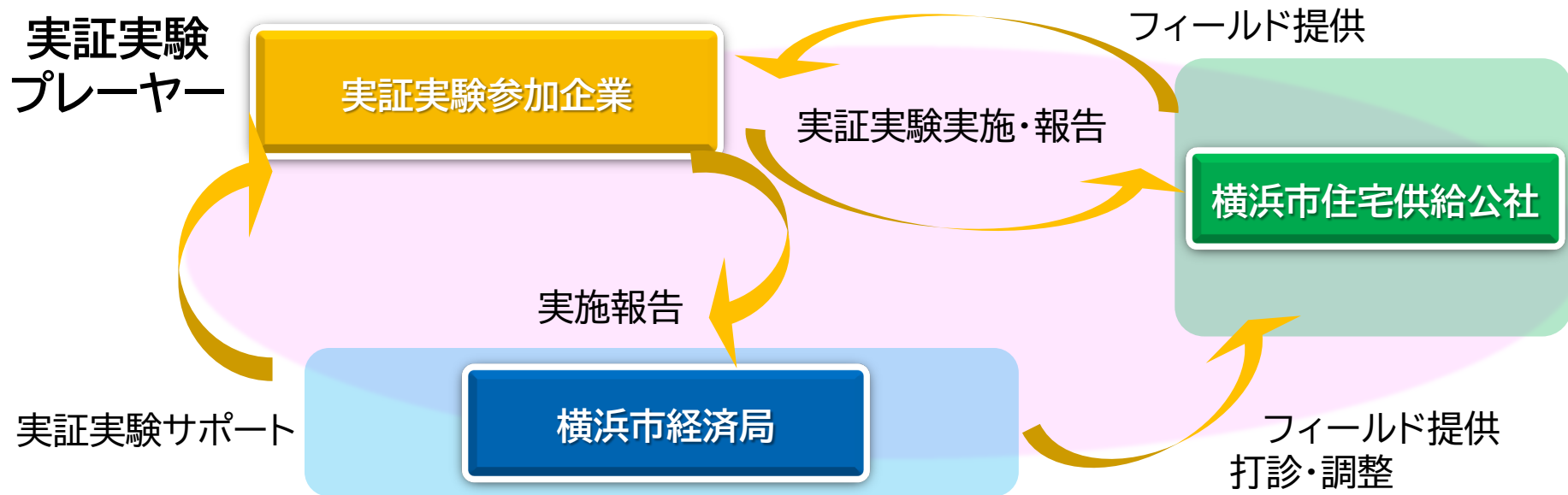
2023.8.23 | SMART AGRI編集部

横浜市は、「VR×IoT×AMRの未来農園」、「IoTによる鳥獣被害対策、不法投棄・盗難対策通知」の2つの実証実験を都筑区・栄区の農地で開始した。



# 「より安心して快適な住環境・サービス」をテーマとした 実証実験の概要

明日をひらく都市  
OPEN × PIONEER  
YOKOHAMA



場 所：横浜市住宅供給公社保有の物件

実施内容：子ども・子育て支援や住民の安心・安全性の向上、物件管理・運営サポート、脱炭素化に向けた取組等により住宅の安全性や快適性を実現する、新たな製品・サービスに関する実証実験

目 的：住宅の安全性や快適性を向上

# 「子育てしたいまち推進モデル地区」の取組

明日をひらく都市  
OPEN × PIONEER  
YOKOHAMA

## 放課後施策

小学校始業前の朝の居場所づくり、夏休み期間中の昼食提供



## 歩行空間の整備

誰もが安全・快適に通行できる歩行空間の整備



## 「公園のまちヨコハマ」の推進

- ・ 遊具、ログハウスの更なる活用等
- ・ 受動喫煙対策の実施



## 脱炭素のまちづくり

地域や民間企業等と進める、脱炭素化に関する普及啓発（創エネ見える化、イベント実施）等及び子育て世代が活躍するまちづくり

## 地域交通

子育て世帯の負担軽減（子供の習い事の送迎の負担軽減、買い物における負担軽減等）



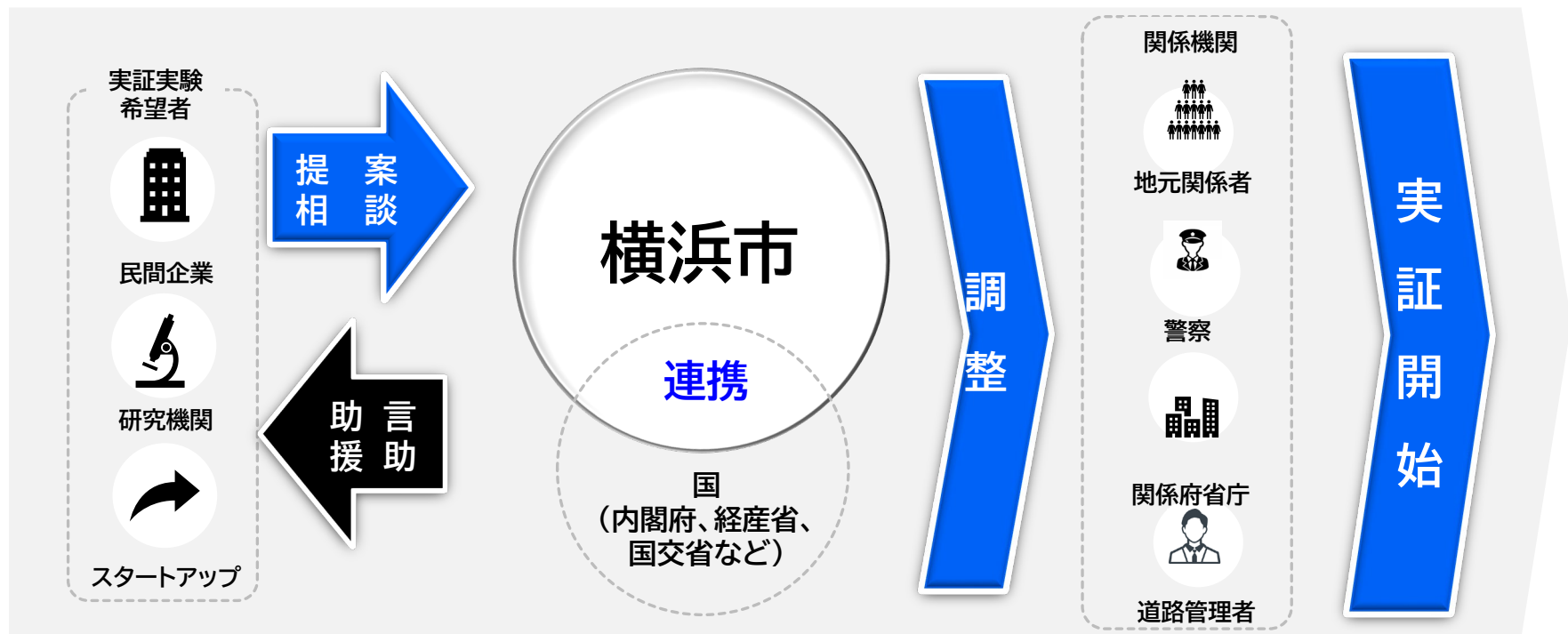
- 幼 幼稚園
- 保 保育園
- 小 小学校
- 公 公園
- ケ 地域ケアプラザ



※イメージ図です。

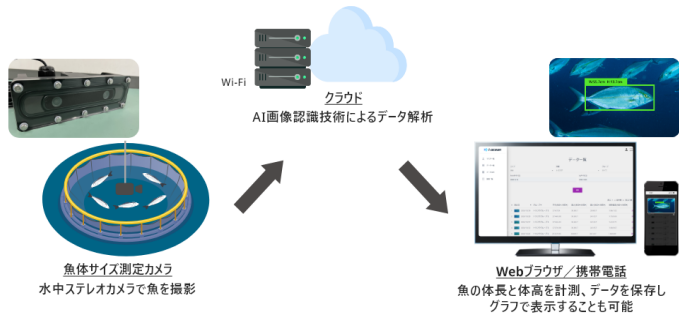
# 国際戦略特区の枠組みを活用したワンストップセンター

明日をひらく都市  
OPEN × PIONEER  
YOKOHAMA

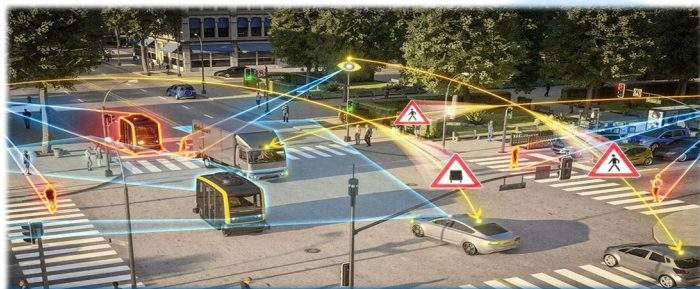


企業から提案を受けた近未来技術の実証実験について、公的機関などとの調整を横浜市が行います。

## 魚体サイズ測定カメラ



## AI機能搭載カメラ



## インテリジェントインターセクション



## わかりやすい字幕表示システム

様々なプロジェクトがビジネス化を目指して実証実験を行いました！